

令和7年度第3回北杜市子ども・子育て会議 会議録

開会日時 令和8年1月29日(木) 開会:9時30分 閉会:10時30分

開催場所 北杜市役所西会議室

出席者

民生委員・児童委員協議会会長 清水 真理子 委員長
帝京学園短期大学教授 吉田百加利 副委員長
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)副部会長 清水 もとみ委員
北杜市母子愛育会会長 波木井みゆき 委員
北杜市 PTA 連絡協議会会長 溝口 奈緒美 委員
北杜市保育園保護者連合会会長 田中 貴雄 委員
北杜市保育園保護者連合会副会長 関 育代 委員
北杜市校長会 代表 宮崎 克美 委員
青少年育成北杜市民会議 会長 田中 隆 委員
防災ママ@北杜 副代表 大久保 香 委員
北杜市保育協議会会長 日向 五十鈴 委員
北杜市保育協議会副会長 前田 久美 委員

(事務局)

こども政策部長 小澤哲彦、子育て政策課長 土屋 直己
子育て政策課子育て応援担当 篠原 伸宗、子育て政策課総務企画担当 小林 静香
こども保育課長 三井 智昭、こども保育課保育担当 藤原 昭訓
ネウボラ推進課長 坂口 美穂、ネウボラ推進課保健指導監 小泉 敏美
ネウボラ推進課ネウボラ推進担当 有賀 道子
教育委員会教育指導主事 矢ヶ崎 憲

欠席者

民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)部会長 小澤志保子 委員
北杜市食生活推進協議会会長 茅野キヨ子 委員
北杜市放課後こども教室コーディネーター代表 矢崎 元子 委員
北杜市 PTA 連絡協議会副会長 中沢 佳弘 委員
北杜市 PTA 連絡協議会副会長 鳥屋尾 健 委員
北杜市商工会会長 小野 光一 委員

議題

- (1) 令和8年度こども政策部新事業について
- (2) 保育園の運営について
- (3) こども誰でも通園制度について

(4)その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人 3人

議事

(1)令和8年度こども政策部新事業について

—資料に基づき事務局から説明—

委員

マタニティータクシーの上限は1万円でよいか。

事務局

資料の訂正をお願いします。上限1万円です。

(2)保育園の運営について

—資料に基づき事務局から説明—

質問・意見無し

(3)こども誰でも通園制度について

—資料に基づき事務局から説明—

委員

国からの給付金は子どもが来園した日だけもらえるのか、それとも毎月5名分もらえるのか。

事務局

こども誰でも通園制度の公定価格は、子ども1人1時間当たり、0歳児は1,700円、1歳・2歳児は1,400円と示されており、実績に応じて給付をいただくことになる。

委員

違う子が預けられてずっと泣いていれば園児も混乱してしまうし、職員も大変になると思うが、その辺のデメリットはどう考えているか。

事務局

利用にあたっては不安もあると思われるので、事前面談を保護者・子ども行い、普段の様子も確認しながら最初は親子通園という利用も出来ると考えている。現場も対応が大変になる部分もあるので、須玉保育園には誰でも通園制度を考慮した職員配置を考えている。

委員

特性や障害がある園児がいる保育園は職員の加配が必要だが、それが出来ず大変になっている保育園がある中、誰でも通園制度が始まるということか。

事務局

現状、各保育園でも特性や障害がある園児については、保育園を訪問し園長先生からの要望も聞きながら配置を進めており、様々なケースについて対応している。そういった対応をしつつ、こども誰でも通園制度でも受け入れられるようにしっかり話し合い、配置していきたい。

委員

定員5名以上の利用希望があった場合、どのように選ぶのか。

事務局

甲府市の令和6年度の実績では1園当たり1ヶ月平均で2.5人の利用だったことから、山梨県内の中ではまだニーズが少ない状況と考えており、本市でも事業を進めながらニーズを確認し、定員枠については検討していきたい。

委員

話を聞いていると、働く現場は相当混乱すると思う。

事務局

本市の場合、こども誰でも通園制度を行いながら、それ以外にも子育て支援センターでの親子の利用、つどいの広場、ファミリーサポートセンターも含めて体制を整えていきたい。保育園では集団生活を子どもに提供し、その環境に慣れてもらう面もある中で、保育園や保育士にも考慮しながら実施していきたい。

委員

昔とは子育て環境が難しくなっていることは感じるので、必要な制度とは思う。やはり働く保育士あつての保育園であり、保育士が大変な状況になれば良い保育はできないので、行政でぜひ現場の声を聞いていただきたい。

(4) その他

－資料に基づき事務局から説明－

質問・意見無し

委員

では、資料1から5まで質問を受けます。

委員

資料1の児童相談システムについて、0歳から何歳までの相談情報を一元化していくのか。

子育て訪問事業について、ヤングケアラーの周りの人が気付いて報告や相談する窓口を用意するのか。

5歳児相談事業について、診断から支援級要望までの対応ルートがあることを周知してほしい。

子育てPR事業について、北杜での子育てを希望して移住してきた方に、こういう場合はこんなことが大変になるという部分も情報提供してほしい。

現在、子どもの入院先が韮崎市には無く甲府市になってしまい、兄弟がいる場合は面倒を見てくれる人との連携が必要になることを移住相談の際に周知していただきたい。

事務局

児童相談システムについては、0歳から18歳までが対象。国のガイドラインで求められているサポ

ートプランの作成や母子保健を始めとした関係部署との連携、要保護児童対策地域協議会の会議の資料作成等に使用する。

子育て世帯訪問支援事業について、保健師が家庭訪問する中で聞き取りなどを行っており、支援の必要性を判断していく。

5歳児健診事業については、なるべく早い時点で特性があるかを判断し、療育に繋げるために実施する。対象は保育園年中児で、6月から11月に実施する予定。その後、就学時健診まで半年ほど期間があるので、その間に必要な方は療育に繋げていきたい。

事務局

子育てPR事業について、これまでホームページ等が伝わりにくいというところがあるので、見える化し、分かりやすいホームページ等を作っていきたい。

委員

マイホーム補助金について、金利負担が増えているので利子補給を検討したらどうか。

事務局

利子補給は一時期実施していたが、活用がほぼ無かった。市としては、全国トップレベルの新築最大150万円を維持しながら、新婚・子育て世帯の住む場所の安定化を図っていきたい。

委員

児童相談システムは、市教育委員会と情報共有されるのか。

発達障害、貧困、いじめ、不登校やヤングケアラー等の問題に対し、様々な支援があることを小中学校にも資料にまとめて見える化していただきたい。

事務局

児童相談システムについて、閲覧制限を設け、必要な情報については共有していく。

事務局

支援制度や相談窓口の情報を小中学校においても出来る限り保護者に周知していく。

委員

見える化やPRは難しいが、やりすぎることではないので、ぜひやっていただきたい。

委員

放課後児童クラブの職員向けに、特性のある子どもの対応についての学習機会を設けてほしい。

事務局

放課後児童クラブの職員一人一人と面談をした中で、特性のある子の対応に悩んでいる職員もいた。外部講師を呼ぶ等、来年度はしっかりやっていきたい。その中でICT化ということで、保護者の利便性向上や職員の負担軽減を並行して行っていき、子どもに向き合う時間を多くしていきたい。一つ一つの施設のレベルアップもやっていかなければならないが、支援員が不足しているという現状がある。

以上